

いつの時代も、
どこで暮らしても、
私は私らしく生きた

恋するピアニスト フジコ・ヘミング

FUJIKO HEMMING, A PIANIST WITH A ROMANTIC TONE

出演・音楽：フジコ・ヘミング

監督・構成・編集：小松莊一良

プロデューサー：大村英治 佐藤現 撮影監督：藤本誠司

録音・整音：井筒康仁 サウンドエンジニア：坂元達也 カラリスト：林元太郎

宣伝：安川千尋 演出補：小松上花

企画：スピートキー 制作プロダクション：WOWOWエンタテインメント

製作：東映ビデオ、WOWOWエンタテインメント、スピートキー、WOWOW 配給：東映ビデオ

2024年 / 日本 / 119分 / 5.1ch ©2024 恋するピアニスト フジコ・ヘミングフィルムパートナーズ

fujiko-film.com/

世界中から愛され、
人々の心を震わせてきた。
ピアニスト、フジコ・ヘミング。

“恋”に彩られた彼女の人生、奏でた音色は、旅を続ける。

——子どもの頃、寝床に着くと聞こえてきたのは、母が弾くショパンの「ノクターン」。
その音楽に魅了され、ピアノに触れた時から、フジコの音楽の旅が始まった。
数奇な運命をたどり、世間から注目されたのは60代後半。いくつもの苦難が訪れても、フジコはピアノを弾くことを決してやめなかった。
90歳を超えてもなお、世界中で精力的に演奏を続け、公演はどれもソールドアウト。2024年もたっさんの公演を控えていた中、フジコは4月に急逝した。

サンタモニカ・パリ・東京での暮らし。

演奏の原動力となったのは、家族である動物たちや自分を信じること。各国に家を持ち、愛する猫や犬たちに囲まれ、ピアノを弾く毎日が、彼女の愛すべき世界だった。

2018年に異例のロングランヒットを記録した映画『フジコ・ヘミングの時間』から6年。

本作は2020年から4年間の旅路を演奏と共に描くドキュメンタリー作品である。

戦時中を過ごした岡山に残されているピアノとの再会、父や弟との思い出、コロナ禍での暮らしと祈りを捧げる演奏、思い出の地・横浜でのドラマティックなステージ、そして秘めた恋の話——。フジコはどんな時も、自分らしく生きてきた。



フジコが愛したパリでのラストステージ

2023年3月、フランス・パリ、コンセルヴァトワール劇場でのコンサートでは、「ラ・カンパネラ」「別れの曲」「月の光」「亡き王女のためのパヴァーヌ」など、数々の名曲が披露された。「最後の演奏会はどんなものになりたい？」の問いに、パリでの演奏会のようにしたいと話していたフジコ。

大切な場所で、過去と記憶が交差し、フジコの人生とともにあった魂の演奏に思わず涙があふれる——。



恋するピアニスト フジコ・ヘミング

出演・音楽：フジコ・ヘミング 監督・構成・編集：小松莊一良
配給：東映ビデオ ©2024「恋するピアニスト フジコ・ヘミング」フィルムパートナーズ



公式HP: <https://fuzjko-film.com/>

公式X: @Fuzjko_film

10.18(FRI) 全国ロードショー